
私の最後の最高の恋愛…

しい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の最後の最高の恋愛…

【NZコード】

N4308A

【作者名】

しい

【あらすじ】

自分が体験した運命の人…人の温もり…友達の愛情など…恋愛の難しさ…大きさ

第一話 始まり（前書き）

同じ思いをした人…今してゐる人へ…勇気を…

第一話 始まり

私はある時に 仲良しの友達に連れられ… 一件の店にやつて來た。
そこで一人の男性に会つ、始めの印象わ…かるそう 遊び人 サイ
ヤクな男。

その時わ こんなツライ苦しい恋愛になる事など思つてもなかつた…
たまたま共通の知り合いが きっかけで連絡先を交換し、たまに遊びに行つた。

この頃わお互いに別の相手が居て 飲み友達みたいな感じ! ほぼ毎日 一緒に遊ぶ用になつて…ある日 電話があつて いつものよう
に待ち合わせて 楽しく飲んでいたら…彼女と別れたつて話だして
理由わ 最近 気になる人が居るとかで…彼女とわもともとケンカ
も多く 遠距離だつて話わ聞いてたので 慰めながらも楽しく飲んで
お互いに帰つた。その日にわバイバイした後でメールが来た。彼
からで…『明日 会えるか…』 つて一言。この時にわ自然に毎日
一緒に気になる人に私の中にもなり始めてた…理由わそのメール
でドキドキした事 嬉しくて返事した事 答えわOK…私わ不倫だ
つた恋を捨てて彼に夢中になつた。楽しみにしてた当日 特にかわ
らない私達…その日わ私から不倫相手とわ別れた事を切り出した
そしたら急に抱きしめられて…ツライか?泣いてもいいんやで…と
言つてくれた。すでに彼に引かれてる私わ泣く事なく飲んでいた。
帰りに 頭をポンポンしながら『ずっと側に居てくれるか』と聞かれ…言葉にださずに頷いた。そこで始めてのキス…すごく優しく温
もりを感じた!彼わ一つ年上で始めの印象より 優しくたのもしく
思つた。そんな幸せわ三ヶ月ほどで 友達との飲み会と言つて出掛けた彼…帰つたのわ朝方。

その間わ私からの連絡わ一方通行で 帰つて來た時イライラしながらも寝たフリをした…そこで彼の電話が…わざわざ外に出て話ていた 気になるが寝たフリをした。

部屋に戻つて次わ私にそつと腕枕をして次わメール…うつすら目を開けて画面を見たら『今日のコンパ楽しかつたね また会つてね』と言つメールでハートマークいっぱいでした。

彼わそのメールに『好きやで』ハートマークみたいな返事 信用してた自分にイライラが…それに カなりのショックでした その日からの私わ何を言われても信用できず不安な毎日を過ごしながら彼の帰るのを待つてました…以後も たまに連絡なく遊ぶ日わ度々で…そんな時 私わ車に事故されて約一ヶ月の入院…彼の好き放題に遊べる一ヶ月がやつて來た…病院でわさらに不安の毎日で眠れる事もなくメールの返事や 電話がないと睡眠薬を飲んで寝た…少し精神も不安定になり精神科にもかよつた…彼が見舞いに来る事わ一度もなく外泊の時に食事したり…その間の事わ今だに謎のまま…退院してから普通の生活を期待していたが私の精神もおかしく…薬を飲む毎日…前に比べて実家に彼が帰る事も増えて…一人の夜が増えた。次第に私わ素直に思いを伝える事もなくなり強がりな自分になつてしまつた…思つてる事 言いたかつた事 聞きたい事…何も言えない聞けない…毎日。

ストレスで毎晩 酒に逃げ…頼つてしまつた。

酔つてわ出会つた時の事 それからの幸せな生活…思い出してわ毎晩 泣いた…そんな気持ちも知らずに彼わ相変わらずだ。久々のデト!嬉しくて待つていると電話がなり…ドタキヤンの連絡。とうとう私の我慢が爆発で…大粒の涙に変わり 少し距離を空ける事にしようと話をする決心をした でも好きだから顔を見ると話が切り出せない…そんな情けない自分に またイラダチがつのる…月日わ半年を超えた。

第一話 始まり（後書き）

第一話 怒り…も見てね

第一話 怒り…（前書き）

信じた人の裏切りに嫉妬に苦しんで 自分を無くしてキズつけて行く

第一話 怒り

ずつとイジイジしてる私わ強がりの女にするきつかけになつたのわ
彼の着歌だつた 私だけしか歌わ変わつてなく全て同じだつた歌が
コンパの女とわ別の歌が… 一気に不安になり仕事に出掛けた後… 少
し前に携帯の機種を変えた彼の古い電話の電源を入れた… «私の事
本気で好き』と相手からのメーリに対して『めつちや好きやで本
気やし』と彼の返信… それ以上わ見る事ができず怒りと裏切りで手
が震える… 体も。

それをきつかけに私からの彼への連絡を控えた…特に異変に気付かず普段のままの彼：時々 連絡しない日も作つた この時 私は恋愛が好きだけでわ無理な事に…難しさに気付いた。

追いかけると逃げたり余裕の現れかで…冷たくすると氣になる。ある意味 駆け引きのゲームのように…私も友達と飲みに出掛ける時も増え…一人にも慣れてと言えば ウソになる。

二人の時わ少し狭く思つたベッドも一人だと……広い……連絡を減らしてからわ彼からの連絡が増えた……週に何度も帰つてきた……私も胸に飛び込みたい気持ちを我慢した。

緒の時もエンドバージャーない歌が流れる今度の女は飲み屋の年以上バツイチ子持ち…前の携帯を見た時に相手が本文に書いていたから…その歌が鳴ると彼わ知らん顔をしてるが私わ背中を向けイラダチに狂う日々…不安定が続き涙もろくなつたり 怒りつぽくなつたりした彼にラブメール違う…最近わいろいろな歌 流れるね など嫌味な事も言つてやつた そうして一年がすぎ相変わらずな態度が抵抗や反抗した…ある日 私わ買い物してる時に腹痛で倒れ病院へ…神経胃炎と腸炎だったストレスからだ。心配した彼わほぼ毎日また帰つて

きた
..

第一話 怒り…（後書き）

第三話 距離 別れ…

第三話 距離 別れ

次第に私わ自分から会いたくても寂しくても素直にメールしたり伝えたりできなくなり距離がでてきた…体調を崩して毎日帰つて来てわ優しい彼…でも素直になれない私…理由わ会つていないと…その腕で他の女を抱きしめ腕枕して大好きな彼の笑顔で目で他の女を見つめ…その手で他の女に触れ…その口でキスをして…と思ひ嫉妬に狂う自分が居たから…私つて変ですか…自分だけの人で居てほしい気持ちが強いですか…そんな事をされても好きだつて気持ちが強い私わ…そんな事を思いながら我慢した。

ある日から彼の仕事も忙しく…私も仕事に追われる毎日でお互いの連絡もなく別々に寝る日々が続き…ベッドの広さにも慣れたしかし人肌わ毎日…恋しかつた…彼の温もりが思い出せない…抱きしめられた力も。

休みの時に久々に『会いたいぞ…』とメールがあり会つた。少しきこちない二人…彼も気を使って携帯わバイブ…私も邪魔されたくないでのバイブにして…食事が終わり飲みに行つて…お酒が入つて会話もはずんできた…私わ懐かしくなり…そつと自然に彼が手を繋いできた瞬間に大粒の涙がこぼれるた…今までの我慢の現れ…そこで彼わ理由も聞かずにそつと抱きしめてくれた…私わ思つてることを聞いた。

『私わ何?嫌いになつた?他の女が好きなん…都合のいい時だけ』彼わ黙つて聞いて『好きやしあ前が心配する事わ何もない』と…そのまま一緒に帰り…私わ毎日が辛くて苦しい事を話た…彼からわ『お前がそこまで思つてると思わんかった…すまん…少し距離おこなが』との返事だつた。私の中でわあなたが距離おいて自分が楽になりたいんでしょ…自分の都合で勝手すぎるつて思つた。それでも追いかけて見苦しい思いをしたくなく…自分の中でも耐える事がしんどくて私わ黙つて首を立てにフリ頷いた…その日から一人の毎日が

続いた毎晩 飲んで泣く日々との戦い…すでに私わ寂しさからボロボロになつていた。

一週間になるかと思つた時に懐かしくも思える彼からのメール着歌…すぐに見る勇気わなかつた 時間だけが立ち…次わ電話がなつた。でも何故か怖くて出れない 切れた後でまたメ～ル…受信ボックスを開けた…『元気か 体調悪くしてないか。』一通目…『寂しいな お前わ寂しくないか 僕わめっちゃ会いたい』私わ何故が嬉しく見てる時に涙した…でも変に強がりを覚えた私わ『寂しいけど頑張る…会いたいけど我慢するから…』と返信した…その日から彼の着歌が鳴る事わ当分なかつた

第三話 距離 別れ…（後書き）

別れの後で… 真実や相手への思いに居なくなつて始めて気がつく…

第四話 最終…（前書き）

彼氏と別れ一人の男…女に戻つて まだ同じ男に片想い…

第四話 最終

連絡もなくなり… 私は仕事に打ち込んだ。

夜もバイトをした 一人で思い出の詰まった部屋に居るのがツライ
からだ… 親友の働いてる所に一緒に行つた 親友にわ自分の気持ち
も素直に話せる家も近いから泊まる事もあつたが助かつた… 近くに
こんな友達が居ることに… 感謝… 休みも一人で遊んでいた。

一ヶ月が過ぎる頃… ふと『もう彼の事… 忘れたの? 気持ちはないの?』
と聞かれ… 素直にまだ好きだと答えた… 普通に考えたら キズつけ
られ嫌いなはず。

でも時間がたてば 沢山の事を彼との出会いから別れまで学んだ。
人を愛する事 キズつき苦しい事 大切さ 人の温もり… 強がり
嫉妬 別れ 寂しさ… 沢山の事が ずっと振り返つても 考えても
一日も忘れた事もなかつた。 私は別れの後も彼に恋していた… 片思
い。 人間って出会いわあつても簡単に恋におちない… こんな思い
わ生きてきて始めてで… その後も 仕事でカラオヤなど流れると…
フト思い出してしまう。

彼のよく歌つてた歌… 聞いてた歌… 私もよく仕事で歌う歌わ彼が好
きだつた歌ばっかり… 片思いもツライけど 一緒に居て寂しいのと
どつちが楽だらうとか最近わよく考える。 今のツラさわ会えない
事… 声が聞けない事… 彼わもう私を忘れてしまつたのか? 思い出しえ
くれないのか… 気持ちが伝わつてないのか 気になる毎日… 時間
わ私の気持ちを無視して過ぎて行く… 私の中でも彼を忘れる事もな
く 時間と共に寂しさわましていく… 思いも… 恋しさも。

全然 会つてもいない連絡もとつてない普通なら忘れていくはず。
それなのに日々ツラくなる これが本当の恋…? 人を愛するつて事
なの戻つて来てほしい気持ちが高まる… でも連絡をするメールをう
つ勇気すら… 私にわない。

何てきりだしたらいいのか何が聞きたいのか わからない… 彼氏に

戻ってくれなくても…友達でもいい…そばに居たい…抱きしめてくれなくても隣に居たい気持ちでいっぱい…こんな私ってわがままですか?私にわ本当に最後の恋…でもいい…片思いでも…彼が何より一番だった。

今でも一番です。

きっとこの先…彼わ彼女を作り結婚するだろう…私でわない相手と。それを聞いても私わずつと彼との思い出と共に生活していつてるだろ。その頃にわ笑つて話したい…あの頃のままの笑顔で声で…でも最後でいい『あなたわ私と居て幸せでしたか?私を愛していましたか…今でも思い出してくれてますか この先も…忘れないと約束してくれますか…』私からの最後の彼へのメッセージです…

第四話 最終…（後書き）

読んでくれてありがとうございました。今も私の最後の最高の恋愛
わ月日がたつても続いています。アドバイスや感想があれば 嬉し
いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4308a/>

私の最後の最高の恋愛...

2011年1月13日02時19分発行